薩牟田瀬戸架橋整備

ケーソン橋脚を据付け

県北薩地域振興局甑島支所

県北薩地域振興局建設部甑島支所発注の薩牟田瀬戸架橋ケーソン式橋脚の据え付け作業（P4～P7橋脚）がこのほど、薩摩川内市の現地で行われた＝写真＝。施工は1工区（P4橋脚）が南生建設・藤田建設興業JV、2工区（P5橋脚）が丸福建設・阿久根建設JV、3工区（P6橋脚）が竹山建設・新留土木JV、4工区（P7橋脚）を山佐産業・丸久建設JVが担当した。

作業は、12日から15日までの4日間をかけて実施。串木野漁港と阿久根漁港であらかじめ製作したケーソン式橋脚を10日から架橋位置付近まで輸送し、4JVは12日から、2200t吊大型起重機船「駿河」でそれぞれ据え付け作業に着手した。

薩牟田瀬戸架橋の橋長は1533m。PC連続箱桁橋で、鹿島町側から第1橋217m、第2橋550m、第3橋383m、第4橋383mの4連で構成。完成すると、県内の海上橋としては最大規模、PC連続箱桁橋としては国内最大級となる予定だ。

巨大橋脚でお絵かき大会

薩牟田瀬戸架橋工事安全協議会（野添丞会長・丸福建設㈱）は10日、薩摩川内市の中甑漁港内でお絵かき大会を開いた＝写真＝。地元小学生や保護者など81人が参加し、橋脚土台部分に思い思いの絵を描くなど貴重な時間を過ごした。

同協議会では、ケーソン式橋脚土台が完成し、同漁港内に一時仮置きするため、地域住民らに間近で見てもらおう－と大会を企画した。

参加者らは、地元の漁船3隻で甑大明神橋付近に移動。主催者の説明等を受けたあと、作業を開始。高さ25・8m、下幅18・5m×18・5m、重量約4500tのP4橋脚（施工・丸福建設・阿久根建設JV）を目の前に子供たちは、「すごく大きい」などと驚きの表情を浮かべ、それぞれ巨大キャンパスに思い思いの絵を描いた。

野添会長は「絵は海中に沈んで見えなくなるが、参加していただいた皆さんの思いとともに、今後も安全施工に努めていきたい」と語った。

土佐屋が100周年

新世紀へ一歩踏出す

霧島市に防災マイク寄贈

㈱土佐屋（岡部龍一郎社長）は26日、創業100周年を迎えた。同日、霧島市のかごしま空港ホテルで社内式典を開き、新世紀への一歩を踏み出した。また、同市に対する防災用ハンドマイクの寄贈を披露した。

式典には、社員をはじめ同社OBら約345人が出席。記念事業として創業地の霧島市に対し、災害対策に役立ててもらおうと、同市の全89自治公民館に拡声器を寄贈。前田終止同市長が祝辞とともに、お礼の言葉を述べた。

また、会社を設立した創業者の長男、故加藤勉伯前会長の睦惠夫人に感謝状と記念品を贈った。併せて、中園庄一元専務らOBに感謝状を贈呈。さらに、酒樽の鏡割りを行い新たな門出を祝って乾杯した＝写真＝。

岡部社長は、前会長や創業者の功績をたたえ、社員、OBへの感謝を述べるとともに、「現役世代は100周年をスタートラインに未来に向かって会社を成長させよう」と呼び掛けた。

同社は1913年8月26日、現在の同市国分に、加藤覚次郎商店として創業。18年、勉伯氏が佐屋金物を設立した。従業員は約400人。創業時に販売した金物の大半を高知県（土佐）で仕入れていたことが社名の由来になった。

記念ゴルフコンペ

160人が腕を競う

また、記念のゴルフコンペも開催。23日、同市のかごしま空港36カントリークラブで取引先などから160人が参加して日ごろの腕を競い合った＝写真＝。優勝は冨ケ原達郎さん（溝辺CC運営委員）、準優勝に池田勝彦さん（36CC同）、3位に大木哲治さん（㈱大木）らが入賞した。

出水工業が優勝

高校ロボット競技大会

県高等学校ロボット競技大会が23日、鹿児島市の鹿児島市勤労青少年ホーム体育館であった。県下14校から15チームが参加。熱戦を繰り広げた結果、出水工業高校の軽技J－1チームが見事1位に輝いた＝写真＝。

今回の競技は、全国大会開催地となっている愛知県の観光名所「中部国際空港（セントレア）」「愛・地球博記念公園（モリコロパーク）」「名古屋城（名城公園）」の三つをイメージ。3分間の制限時間の中で、ロボットが渡り棒を渡り、木（塩ビパイプ）の上にある金シャチ（LED電球）を取り、最終的に石垣（はしご）を登って名古屋城天守閣に取り付けるというもの。

出場した選手らは、授業や部活動でアイデアや加工能力をフル回転させ、創意工夫して製作したロボットを巧みに操作。チームで協力しながら、日ごろの成果を発揮しようーと課題に挑戦した。

競技の結果、出水工業高校軽技J－1チームが見事優勝。また、6位までのチームは11月9、10日に愛知県で開催される全国大会に出場する。

建荷協

解体用機械（追加規制）コース

法令改正を学ぶ

建設荷役車両安全技術協会県支部（諏訪健徃支部長）は24日、実務研修「解体用機械（追加規制）コース」を鹿児島市のオロシティーホールで行った＝写真＝。午前と午後の2回に分けて178人が受講し、特定自主検査の対象に加わった解体用機械について法令改正を学んだ。

これまで、建設物の解体工事現場等で使用される「鉄骨切断具」や「コンクリート圧砕具」、「つかみ具」をアタッチメントとして装備する車両系の解体用機械は、労働安全衛生法令において規定されている解体用の車両系建設機械に係わる各種規制が適用されていなかった。

各種解体現場では、導入が急速に進み、労働災害も散見されるようになったことから、2013年7月1日に法令が改正され「新たな解体用機械」として規制対象に加わった。

そのため、車両系建設機械定期自主検査指針の見直し、アタッチメント自体への特自検検査済シールの貼付、解体用機械に関する新たな記録表様式の作成等が必要となり今回、法令の改正部分やアタッチメント検査方法等について講習が行われた。

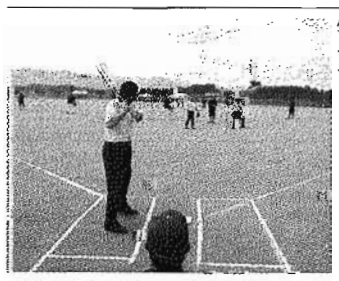
福山等事務局長は「法令改正に伴い解体用機械が加わった。今後とも技術研さんに努め、社会的ニーズに応えていきたい」と話した。

県建設業青年部会ソフトボール大会

出水支部が優勝

県建設業青年部会（有川裕幸会長）の第14回支部対抗ソフトボール大会が24日、出水市の高尾野多目的運動場あった＝写真＝。11支部から約100人が参加。プレーを通じ親睦を深めた。

開会式では、担当支部の中田博基出水支部長が「出水によっこそ。建設業の発展のため親睦を深め合い、意義のある一日にしてください」と挨拶。また、有川会長をはじめ、来賓の小里泰弘衆議、萩亮県北薩地域振興局長、椎木伸一出水市副市長、特手祐治県建設業協会出水支部長らが「安全第一で、良い思い出をつくって」などと祝辞を寄せた。



大会には混成を含む7チームが出場し、スローピッチ投法により熱戦を展開。好プレー、珍プレーが続出し、和やかな雰囲気の中でプレーを楽しんだ。

決勝は、出水支部と宮之城支部が激突。4対2で2点を追う出水支部が最終回に逆転サヨナラで勝利を収め、見事優勝に輝いた。また、3位には姶良支部が入った。

大会終了後、同市のホテルキングで懇親会を開催。会員らは酒を酌み交わしながら、楽しいひとときを過ごした。